

2025年11月11日

第77期(2026年3月期)
第2四半期(中間期)決算説明資料



スタンダード 9367

当社グループについて

商社 食品メーカー 鉄鋼メーカー 化学品メーカー 量販店 倉庫業者 等のお客様

大東港運グループ

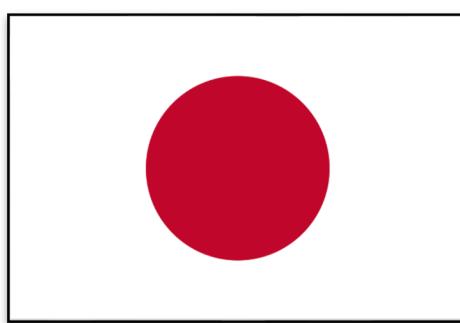


2026年3月期 第2四半期（中間期）の環境



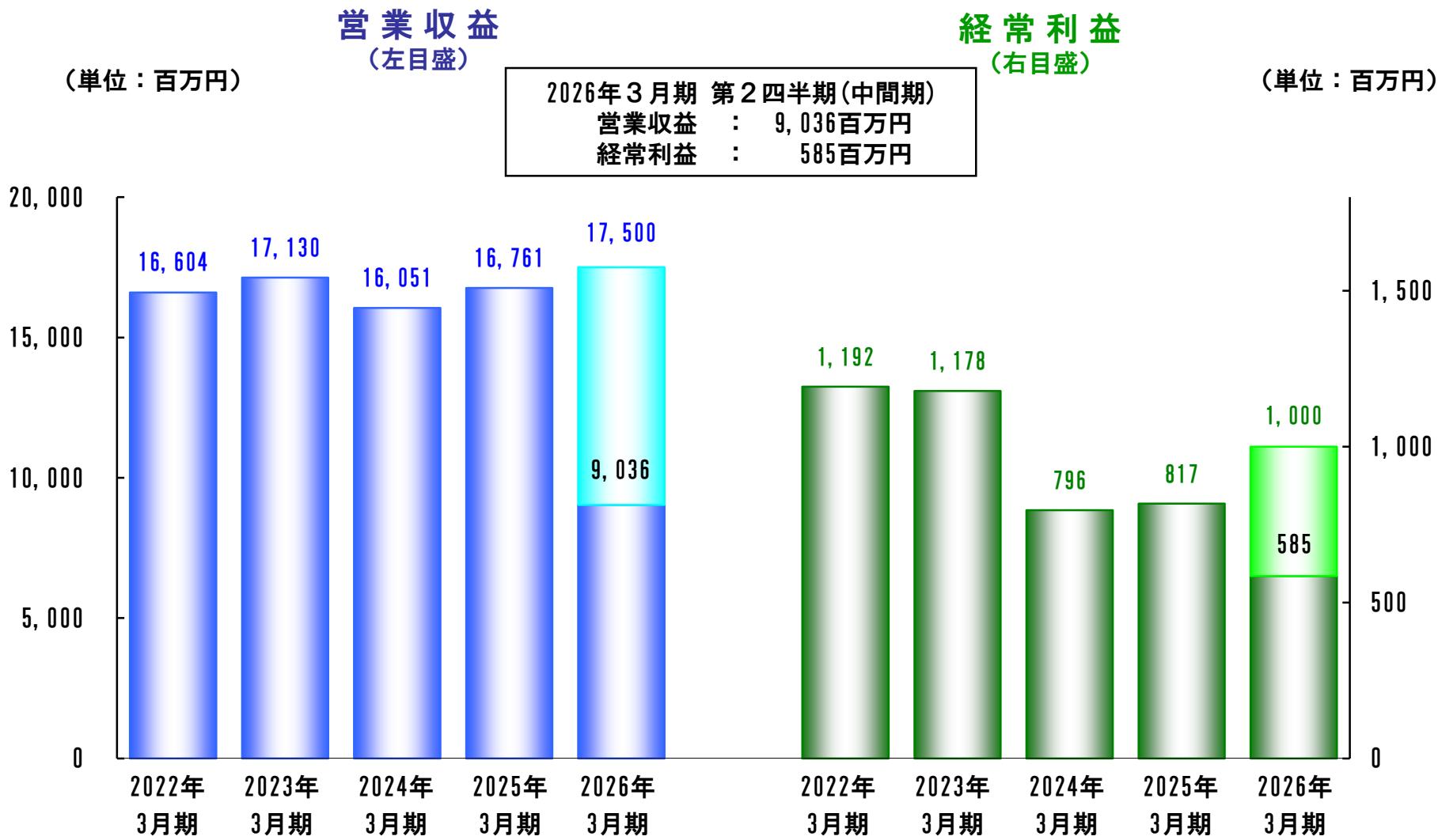
- ・個人消費は弱い動き
- ・設備投資を中心に緩やかに回復

- ・底堅い成長を維持
- ・トランプ政権の経済政策等の影響により先行きは不透明

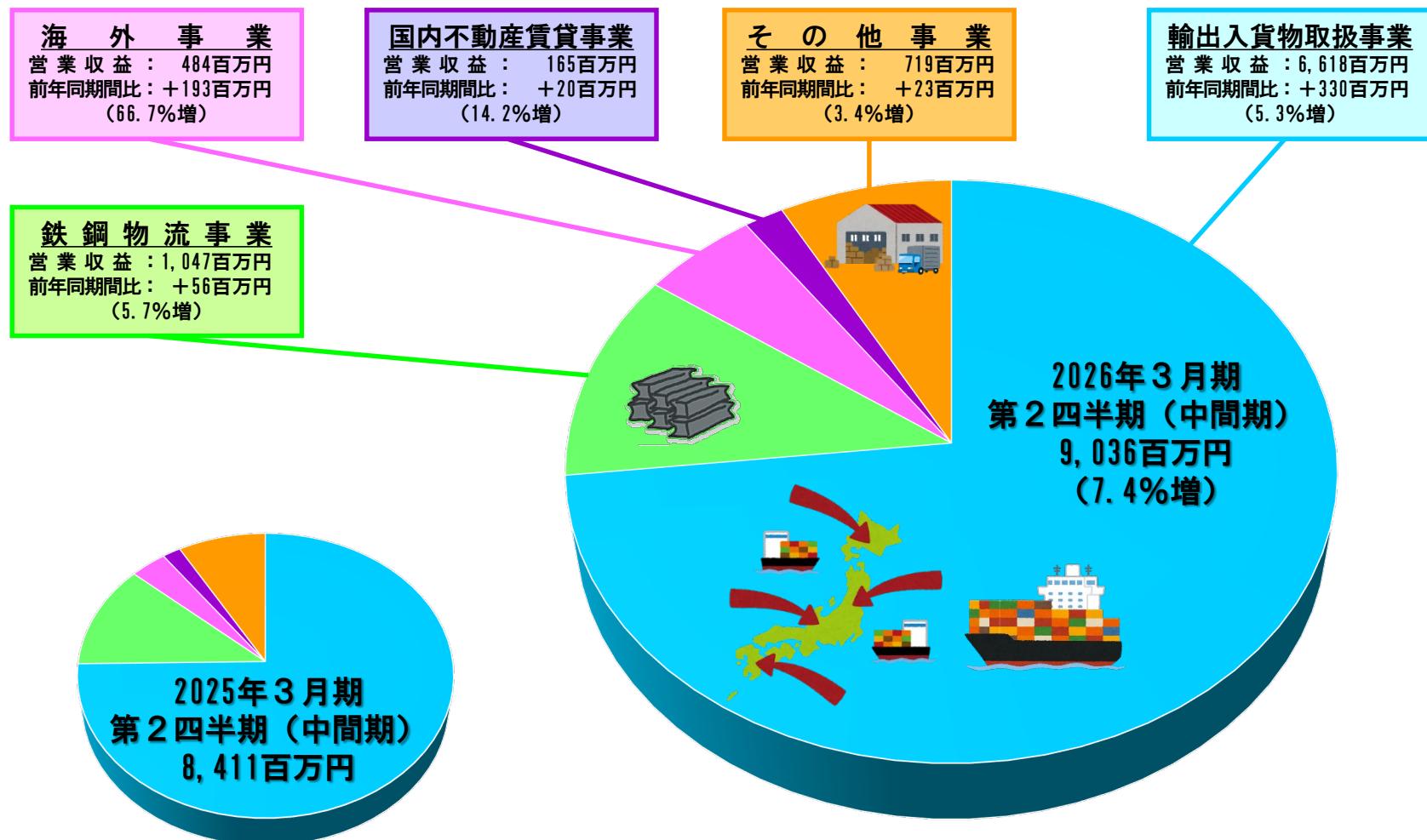


輸入：おおむね横ばい
輸出：おおむね横ばい

連結業績の推移



セグメント別営業収益



※前連結会計年度より、報告セグメントの区分を変更しており、本資料の前年同期間比較については、前年同期間の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

業務別・取扱品目別連結営業収益

連結業績

営業収益：9,036百万円 前年同期間比：+625百万円 (7.4%増)

輸出入貨物取扱事業

営業収益：6,618百万円
前年同期間比：+330百万円 (5.3%増)

鉄鋼物流事業

営業収益：1,047百万円
前年同期間比：+56百万円 (5.7%増)

海外事業

営業収益：484百万円
前年同期間比：+193百万円 (66.7%増)

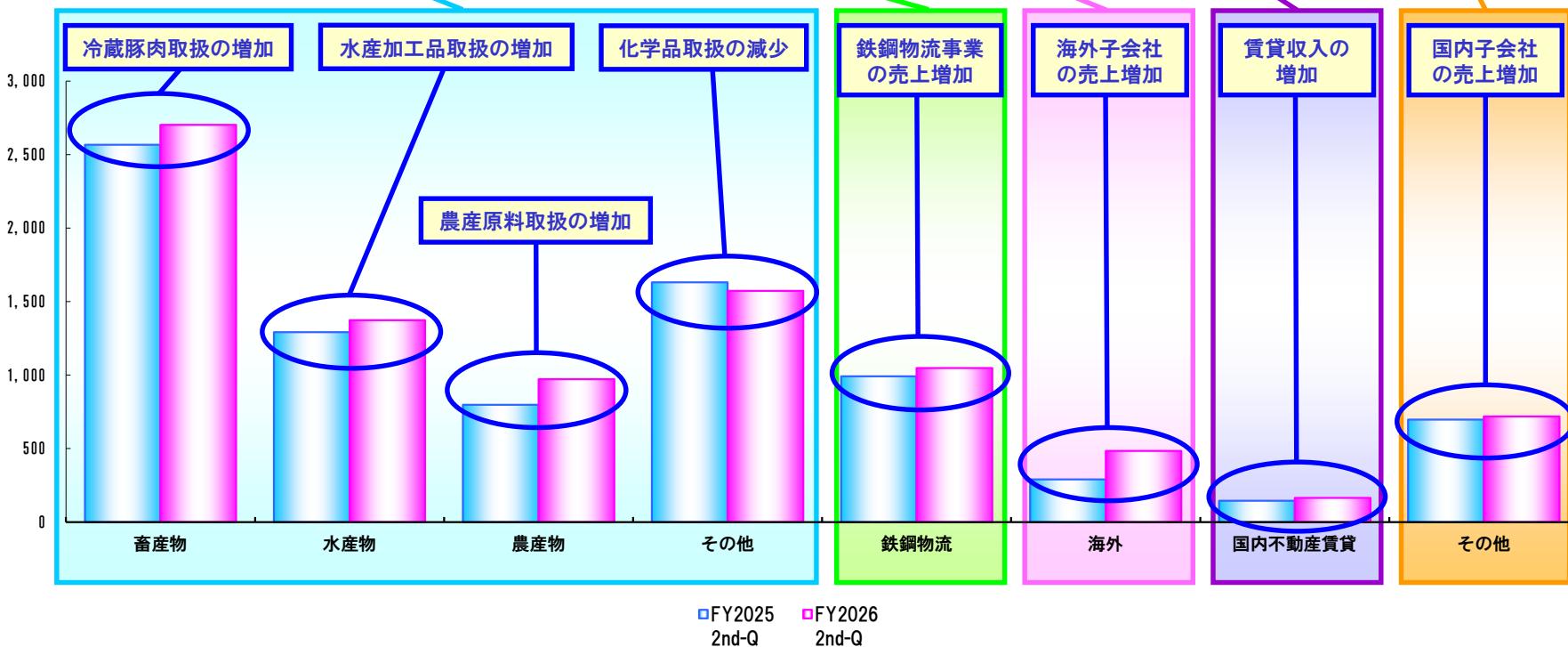
国内不動産賃貸事業

営業収益：165百万円
前年同期間比：+20百万円 (14.2%増)

その他事業

営業収益：719百万円
前年同期間比：+23百万円 (3.4%増)

(単位：百万円)



連結業績の総括

連結業績の総括

営業収益は、輸出入貨物取扱・鉄鋼物流・海外・国内不動産賃貸・その他の取扱が増加し、増収となった。増収により営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益は増益となった。

(単位：百万円)

		2025年 3月期 2nd-Q	2026年 3月期 2nd-Q	増減	%	主な要因
営業収益	輸出入貨物取扱	畜 産 物	2,566	2,702	+135	+5.3 冷蔵豚肉取扱の増加
		水 産 物	1,292	1,372	+79	+6.2 水産加工品取扱の増加
		農 産 物	797	971	+173	+21.8 農産原料取扱の増加
		そ の 他	1,631	1,572	▲58	▲3.6 化学品取扱の減少
		計	6,287	6,618	+330	+5.3
		鉄 鋼 物 流	991	1,047	+56	+5.7 鉄鋼物流事業の売上増加
		海 外	290	484	+193	+66.7 海外子会社の売上増加
		国 内 不 動 産 賃 貸	145	165	+20	+14.2 賃貸収入の増加
		そ の 他	696	719	+23	+3.4 国内子会社の売上増加
		合 計	8,411	9,036	+625	+7.4
営 業 利 益		372	543	170	45.7	
経 常 利 益		439	585	145	33.1	
親会社株主に帰属する 中間純利益		301	393	91	30.2	

四半期連結業績の推移（累計）

(単位：百万円)

		2024年3月期				2025年3月期				2026年3月期			
		1st-Q (4-6月)	2nd-Q (4-9月)	3rd-Q (4-12月)	4th-Q 通期	1st-Q (4-6月)	2nd-Q (4-9月)	3rd-Q (4-12月)	4th-Q 通期	1st-Q (4-6月)	2nd-Q (4-9月)	3rd-Q (4-12月)	4th-Q 通期
営業収益	輸出入貨物取扱	畜産物	1,387	2,561	3,733	4,846	1,335	2,566	3,849	4,972	1,328	2,702	
		水産物	545	1,100	1,671	2,178	638	1,292	2,031	2,595	672	1,372	
		農産物	419	820	1,199	1,533	403	797	1,226	1,610	499	971	
		その他	850	1,706	2,676	3,490	830	1,631	2,485	3,186	745	1,572	
		計	3,203	6,189	9,280	12,049	3,207	6,287	9,592	12,364	3,245	6,618	
	鉄鋼物流	480	974	1,452	1,883	498	991	1,528	2,045	525	1,047		
	海外				462	131	290	501	693	244	484		
	国内不動産賃貸				286	73	145	217	290	81	165		
	その他	535	1,060	1,612	1,368	339	696	1,039	1,367	389	719		
	合計	4,219	8,224	12,345	16,051	4,250	8,411	12,880	16,761	4,485	9,036		
営業利益		223	393	589	641	178	372	648	660	252	543		
経常利益		262	457	726	796	217	439	775	817	259	585		
親会社株主に帰属する 四半期純利益 または当期純利益		173	279	485	534	140	301	525	617	163	393		

※前連結会計年度より、報告セグメントの区分を変更しており、本資料の前年同期間比較については、前年同期間の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

連結貸借対照表の総括

(単位：百万円)

		2025年 3月期 期末	2026年 3月期 2nd-Q	増減	主な要因
資 産	流動資産	7,519	7,829	309	受取手形及び営業未収入金 +169 関税等立替金 +150
	固定資産	7,670	8,165	494	有形固定資産 +213 投資その他の資産 +287
	合計	15,190	15,994	804	
負 債	流動負債	3,239	4,336	1,096	営業未払金 +187 短期借入金 +827
	固定負債	2,381	1,720	▲660	長期借入金 ▲643
	合計	5,620	6,056	436	
純資産		9,569	9,937	368	利益剰余金 +289

※2025年3月期 期末 自己資本比率61.9%（非支配株主持分を除いて計算）

※2026年3月期 2nd-Q 自己資本比率61.2%（非支配株主持分を除いて計算）

四半期連結貸借対照表の推移

(単位：百万円)

		2024年3月期				2025年3月期				2026年3月期			
		1st-Q	2nd-Q	3rd-Q	4th-Q 期末	1st-Q	2nd-Q	3rd-Q	4th-Q 期末	1st-Q	2nd-Q	3rd-Q	4th-Q 期末
資 産	流動資産	7,539	8,018	7,922	8,414	8,385	9,115	9,033	7,519	7,484	7,829		
	固定資産	6,365	6,387	6,315	6,322	6,240	6,329	6,248	7,670	7,584	8,165		
	合計	13,905	14,405	14,238	14,736	14,625	15,445	15,281	15,190	15,069	15,994		
負 債	流動負債	3,189	3,317	3,179	3,258	3,268	3,308	3,195	3,239	3,212	4,336		
	固定負債	2,031	2,279	2,150	2,313	2,146	2,795	2,689	2,381	2,265	1,720		
	合計	5,220	5,596	5,330	5,571	5,414	6,104	5,884	5,620	5,477	6,056		
純資産		8,684	8,809	8,908	9,165	9,210	9,340	9,396	9,569	9,591	9,937		

連結キャッシュ・フローの総括

(単位：百万円)

	2025年 3月期 2nd-Q	2026年 3月期 2nd-Q	キャッシュ・フローのポイント (2026年3月期 2nd-Q)
営業活動による キャッシュ・フロー	358	618	税金等調整前中間純利益 +599 減価償却費 +180 売上債権の増加額 ▲164 関税等立替金の増加額 ▲150 仕入債務の増加額 +188 未収消費税等の減少額 +139 法人税等の支払額 ▲160
投資活動による キャッシュ・フロー	▲205	▲545	保険積立金の積立による支出 ▲106 有形固定資産の取得による支出 ▲457
財務活動による キャッシュ・フロー	276	▲26	長期借入による収入及び支出 +157 リース債務の返済による支出 ▲47 配当金の支払額 ▲103 連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出 ▲33
現金及び現金同等物に 係る換算差額	19	0	
現金及び現金同等物の 増減額	448	45	
現金及び現金同等物の 中間期末残高	4,268	3,039	

通期の連結業績予想について

2026年3月期 連結業績予想について

(単位：百万円)

	2025年 3月期 通期	2026年 3月期 通期予想	増減	説明
営業収益	16,761	17,500	+738	当社グループは「『ありがとう』にありがとう」のコーポレートフィロソフィーに加え、資本コストと株価をより一段と意識した経営に努め、第8次中期経営計画「Be Sustainable ~サステナブルを目指して~」（2023年度～2025年度）に掲げた重点施策を実行し、持続的な成長と収益性の向上を図ります。
営業利益	660	920	+259	これら施策の推進により、当社グループは、中長期的に資本コストを上回る資本収益性を達成し、社会および市場から選ばれ続ける企業グループを目指します。
経常利益	817	1,000	+182	
親会社株主 に帰属する 当期純利益	617	670	+52	

配当金について

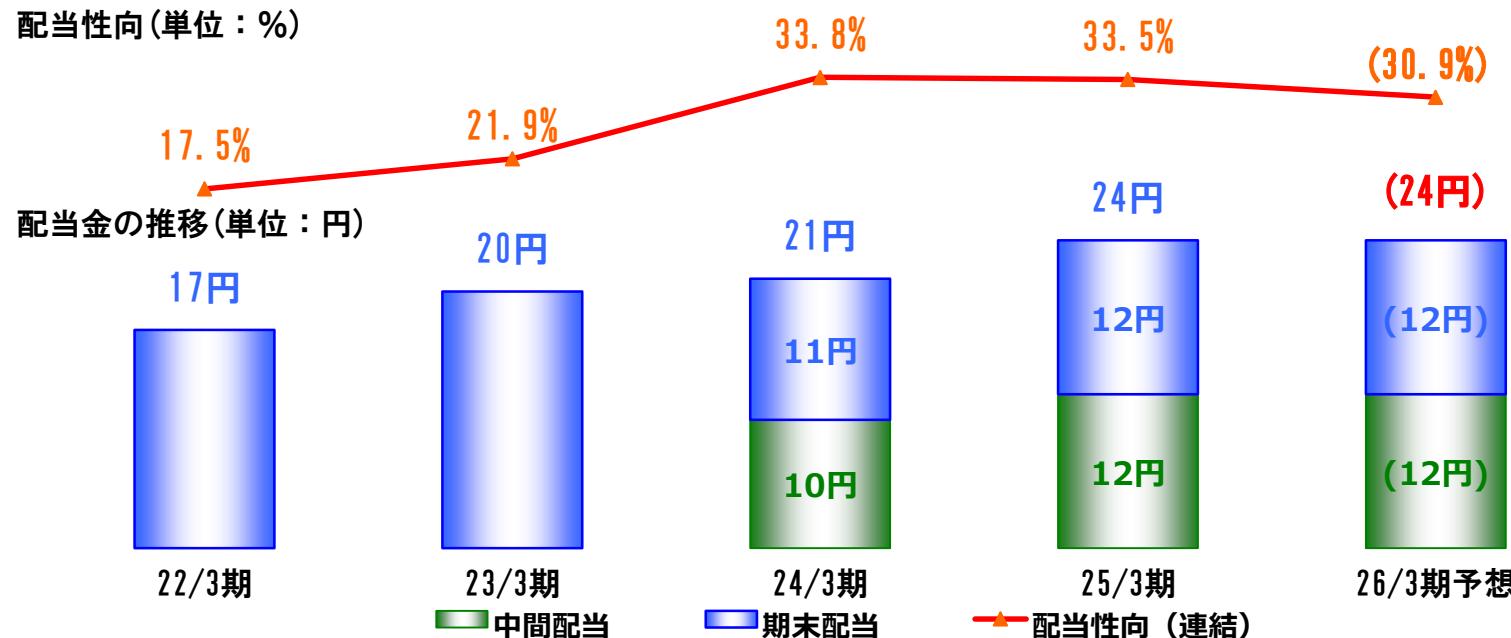
1株当たり配当金・配当性向（連結）

当社は、株主の皆様の長期的な利益還元を重要な課題であると認識し、安定的な配当を行うことを基本方針としています。

配当については、中長期的視点での企業価値向上のために必要な事業投資を継続したうえで、1株当たり年額20円を下限とし、各事業年度の収益力向上を考慮しつつ、配当性向30%程度を目安として実施します。

中間配当及び期末配当の年2回実施することを基本方針といたします。

24年3月期から配当を年1回→年2回に変更



株主優待制度について

当社は、株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、より多くの方々に、当社株式を保有していただくことを株主優待制度の目的としております。

2026年3月期末より、さらに当社株式への投資魅力を高めるため、当社取引先のコストコホールセールジャパン株式会社とコラボレーションし、同社「メンバーシップクーポン株主様ご優待券」引換券を保有株式500株以上の株主様に追加で贈呈いたします。

保有株式数	優待内容
200株以上 500株未満	 クオカード500円分
500株以上 1,000株未満	 クオカード1,500円分 +  「メンバーシップ クーポン株主様 ご優待券」引換券 【追加】
1,000株以上	 クオカード3,000円分 +  「メンバーシップ クーポン株主様 ご優待券」引換券 【追加】

Be Sustainable ~サステナブルを目指して~

基本理念・『「ありがとう」にありがとう』のコーポレートフィロソフィーに加え、社会環境の変化等に伴う更なる課題を踏まえ、持続的に成長する企業となるべく、第8次中期経営計画2023-2025を実行します。

100年企業
に向かって

2017

2020

2023

第6次中期経営計画

Diversification 変化による進化

- ・営業力強化
- ・生産性向上
- ・事業拡大

第7次中期経営計画

Develop inherent value

独自の価値創造

- ・コア事業の拡大と基盤強化
- ・物流インフラ事業の拡充
- ・人財育成の高度化
- ・グループ全体成長

第8次中期経営計画

Be Sustainable サステナブルを目指して

- ・持続的価値の拡大
- ・営業組織力・人財力・IT力の強化
- ・環境課題・社会課題に配慮した事業推進
- ・グループの成長と発展

第8次中期経営計画(2023 – 2025年度) 骨子と取り組み状況①

当社グループを取巻く環境が急速に変化し、価値観が多様化していく中で、成長戦略と事業を通じた社会貢献の実践による持続的成長を実現するため、以下の4骨子から成る中期経営計画を策定し、各種取り組みを実施しております。

I	持続的価値の拡大	コア事業の更なる拡大と新たな成長へ向けた派生事業領域への挑戦
	主な取り組み	<ul style="list-style-type: none">➤ 輸出入関連取引、国内取引の強化を推進しています。➤ 食品物流サービスの強化を目的とした、商船三井ロジスティクス株式会社様との戦略的提携に合意しました。
II	営業組織力・人財力・IT力の強化	営業力向上による付加価値提供力の強化、人・ITの連携による生産性の向上
	主な取り組み	<ul style="list-style-type: none">➤ 生産性向上プロジェクトチームを発足し、生産性10%アップの取り組みを開始しました。➤ リスキル・リカレントメニューを構築し、社員の教育プログラムや資格取得支援制度などを整備しました。

第8次中期経営計画(2023 – 2025年度) 骨子と取り組み状況②

III

環境課題・社会課題 に配慮した事業推進

事業を通じた環境課題と地域社会への貢献

主な取り組み

- サステナビリティ委員会を設置し、マテリアリティの特定を開始しました。
- 業務車両の削減およびHV化を推進し、CO2排出量の削減を図りました。
- 地域貢献およびスポーツの力による社員の一体感醸成を目的とし、バスケットチーム「アースフレンズ東京Z」のオフィシャルスポンサーへ参加しました。

IV

グループの成長と 発展

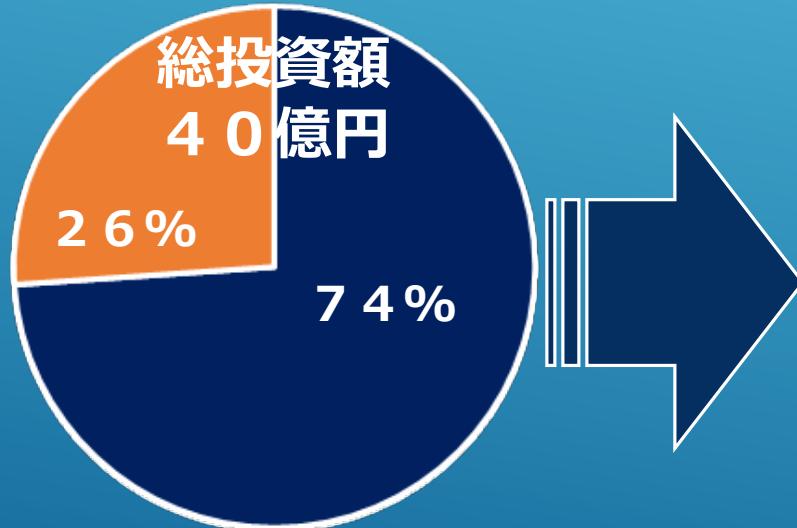
グループ各社の業容拡大とシナジー強化

主な取り組み

- シンガポール子会社 Ever Glory Logistics Pte. Ltd.が、新たな物流需要の取り込み・更なる業務拡大を目的とした、倉庫物件を取得しました。
- 子会社(株)水文の第二工場新設と増資を実施しました。
- 子会社内部統制の見直しと強化を図りました。

第8次中期経営計画(2023 – 2025年度) 投資の状況

2023年4月から2025年9月までの投資額は29.6億円で、第8次中期経営計画で予定している総投資額40億円に対して、74%の進捗率となっております。



投資カテゴリ	投資金額 (百万円)
事業	2,340
人的資本	278
DX・IT	308
ESG	30
計	2,956

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

本資料に関するお問合せ先

大東港運株式会社

総務部総務課

TEL : 03-5476-9701

URL : <https://www.daito-koun.co.jp/inquiry/>